

中部国際空港事業評価監視委員会  
審議結果

1. 審議結果

対応方針(原案)の、中部国際空港代替滑走路事業の継続は妥当である。

2. 委員会における委員意見

(1) 事業費が当初見込みを上回ることについて

- ・施工条件の厳しさに関して、実作業時間が6.5時間から5.0時間になったとのことだが、これは最初から把握できたのではないか。
- ・新規事業採択時評価から1年半しか経っていない中で、これだけ増えたというのは気になる。
- ・今後、設計変更等において費用が膨らまないように、またコストダウンに努めていただきたい。
- ・労務費等の上昇傾向による建設費の高騰については世の中の実感としてあるだろうから、比較的理解を得やすいのではないか。
- ・施工条件の中で、作業時間のように労働環境に関わるものは契約相手方と相対して初めて決まることもあるので、発注前に見通せなかったことについても一定の理解はできる。

(2) 工事の安全対策について

- ・人為的なミスの防止に取り組む上では、是非、デジタル的な手法、DX を積極的に取り入れていただきたい。
- ・将来的に代替滑走路は離陸のみを行う滑走路としての運用が想定されているが、現滑走路の大規模な補修を行う期間においては、夜間において離陸と着陸の両方を行うことが考えられることから、高速誘導路がないことも踏まえて適切に運用する必要がある。

(3) 需要を増やす努力について

- ・代替滑走路とはいえ、外からは二本目の滑走路を造るように見えるため、経済界含め、需要を増やす努力をさらに行っていただきたい。
- ・貨物便数の伸びに国際線の貨物量がついてきていないのは、旅客便の貨物(ベリー)が伸びていないことが理由と考えられるため、貨物便に対してだけではなく、ベリーに対する貨物の促進策があると良いのではないか。
- ・地域の貨物需要があるにも関わらずセントレアではなく成田空港が使われるのは、トラック輸送によるCO2排出につながるという意味でも良くない。そのような

横持ち輸送を減らす取組みにも期待したい。

(4) 事業の必要性等について

- ・本事業が、他空港が被災した場合等におけるバックアップ機能の強化につながるという側面をもっとアピールしても良いのではないか。
- ・インバウンドの受け入れ先として現状目立っていない。政府目標の2030年のインバウンド6千万人を受け入れいれていく上で、セントレアが重要な役割を担うということアピールしても良いのではないか。
- ・日本を代表する国際空港として、滑走路に何らかのトラブルが発生した場合においても、もう一本の滑走路で空港の運用を継続できるということが重要であり、二本目は必要。

(5) 費用便益分析について

- ・便益計測の対象の便が新規事業採択時評価の際よりも増えているにも関わらず計算上据え置いたことについては、「保守的」という表現は合っていないものの、考え方としては理解する。
- ・現実には便が増えたことで、大規模補修工事期間中、また工事後においてもコストが増えている面があるのではないか。

以上